



上流県ながのから海をきれいに うんこドリルで教育アクション

長野県は川を通じて海につながっており、上流域に位置する地域としてのごみ流出防止が重要な課題となっている。この問題に対し、環境教育の更なる強化を目指し、子どもたちの興味を引く「うんこドリル」と連携し、海洋ごみ問題に特化したオリジナル教材を開発。長野市の小学1～3年生全児童に配布され、教育現場で効果的に活用された。さらに、同じデザインを採用した拾い箱を活用し、モデル校での出前授業を通じて体験型学習を実施。また、自治体との連携にも注力し、長野市長自らが参加する清掃活動を実施。加えて、諏訪エリアの小学生による実地での海洋ごみ調査を遂行した。低学年からの実践的な環境教育の実現、自治体との強固な連携体制の構築、そして上流域における海洋ごみ問題への認識向上を推進した。

2024年度 実施状況について

うんこドリル自治体教育連携



- 概要** 長野市と年間を通じた連携活動を実施。小学生低学年向けの海洋ごみ削減教材を制作し、教育委員会を通じて長野市内全小学校の1～3年生全員に配布。同デザインの拾い箱も作成し、モデル校で出前授業を実施。市長参加の清掃イベントも開催した。
- 目的** 海洋ごみ問題に対して、学び、アクションの対象年齢を下げることで、より早く行動変容する機会を設けることで、その後の児童の海洋ごみへの意識をいち早く高め自分事化させる。
- アピールポイント** 低学年の児童の関心を高めるため長野県の低学年児童向けに特化した完全オリジナルの海洋ごみ教材を作成し出前授業を実施。拾い箱を学校に設置し総合的な海洋ごみ教育として活用された。
- 効果** 児童数 小1・2777人 小2・2900人 小3・3008人
計(59校 約8000人)に配布
出前授業3か所 150名
プロギングイベント1回40名

小学生海洋ごみ調査



- 概要** 長野県の環境問題に関心のある小学生15人が三重県志志島を訪問。年間3000トンの漂流ごみが流れ着く現場で、ボランティア団体と交流しながら海洋ごみの実態調査を実施。
- 目的** 海洋ごみ問題の実態を直接体験し、上流域の生活と海洋環境の関連性について理解を深める。環境保護活動への参加を通じて、自分たちにできる行動を考える機会を提供。海のない県の子どもたちが、遠く離れた海の環境問題に主体的に取り組む意識を育成する。
- アピールポイント** 諏訪湖から天竜川、そして太平洋へとつながる水系を通じた環境教育。映像や画像でしか見たことのない海洋ごみを実際に調査し、ボランティア団体との交流を通じて問題の本質に迫った。
- 効果** 参加者が海洋ごみ問題の深刻さを実感し、内陸部の生活との関連性を理解。地元での具体的な行動につながる意識が醸成され、調査報告を通じて他の小学生の環境意識向上にも寄与。

海ごみゼロウィーク（清掃活動）



清掃活動参加人数 8,711人 箇所数 22箇所

- アピールポイント** 今年度は自治体のほか、一般企業への呼びかけを行った結果、参加団体が増加。加えて、中学生とも連携した活動も実施。上流県から海洋ごみを削減していこうという考えが浸透しつつある。

メディア露出



メディア露出本数 10本（テレビ番組）170本（CM）11月末までの予定含む

- アピールポイント** 本事業の海洋ごみに関するトピックを取材しターゲット層の在宅率が高い日曜のゴールデンタイムで放送。イベント告知もCM等で積極的に放送。

2024年度の課題とこれからの展望

海洋ごみ問題は内陸の長野県とも無関係でないことを伝え続けることが当団体の使命だと考えます。特に若い世代、特に小中学生に対する継続的な関心と行動を促進することが重要です。また、新たな目に見えない諏訪湖のマイクロプラスチック問題への具体的対策実施も急務となっています。自治体の連携を強化しながら上流からの海環境保護活動の重要性を全国に発信していきます。